Ａ－２　学校研究

１．研究主題と副主題

自らの学びの力をつける

―――「できる」「わかる」を大切にした授業をめざす（算数科を柱として）―――

２．主題・副主題設定の理由

本校は，平成８年度から地域素材を大切にした課題解決的学習の研究に取り組んできた。15 年度からは，研究主題を生活科・総合的な学習の時間の本来の主眼である「自らの学びの力をつける」と設定し，６つの「学びの力」を明記して実践を深めてきた。その結果，自ら課題決定をし，課題解決の見通しを持ってあきらめずに追求していく力や，大きな声で発表したり，発表の方法を工夫して表現する力がついてきた。しかし，他教科の授業や学校生活の中で自ら考えて行動する力・自己表現力は，十分に発揮されていない。また，みんなの前での話し方や，友達の考えを聞いて自分の考えを持ち，お互いに伝え合って学習を深めていく力も不十分であるという反省が残った。この成果と反省をふまえ，「学びの力」について，総合的な学習の時間だけでなく他教科にも広げて考え直し，＜課題発見，課題解決，表現・評価，発展＞の学ぶ力（学び方）に加えて，学んだ力（基礎的・基本的学習内容），学ぼうとする力（関心・意欲・態度）の三つの力と捉えることにした。

学びの力
- 学んだ力＝基礎的・基本的学習内容（知識・技能）
- 学ぶ力＝学び方（課題発見，課題解決，表現・評価，発展）
- 学ぼうとする力＝学ぶ意欲・関心・態度

そこで今年度は，学んだ力・学ぼうとする力にも目を向け，教科を絞って算数科を通して主題にアプローチしていきたい。教科を一つに絞ることで共通理解が図りやすく，算数科は「わかった・わからない」「できた・できない」がはっきりしており，学びの力がついたかどうかが分かりやすいと考える。算数で「自らの学びの力をつける」ためには，まず，基礎的・基本的学習内容の習熟すなわちできる（解ける）・わかる（ことばで説明できる）を大切にした授業を構築していく。児童はできる・わかるようになると自信がつき，学ぶことが楽しくなる。楽しくなると意欲が増し，次の課題へと挑戦していく気持ちが生まれ，自力解決だけでなくみんなで交流し高めあうことのよさにも気づくであろうと考える。

３．取り組みの重点目標

①「できる」「わかる」を大切にした授業の手立て

教材研究，反復練習，100 ます計算，少人数授業，指導と評価の一体化

②学び合う場の設定

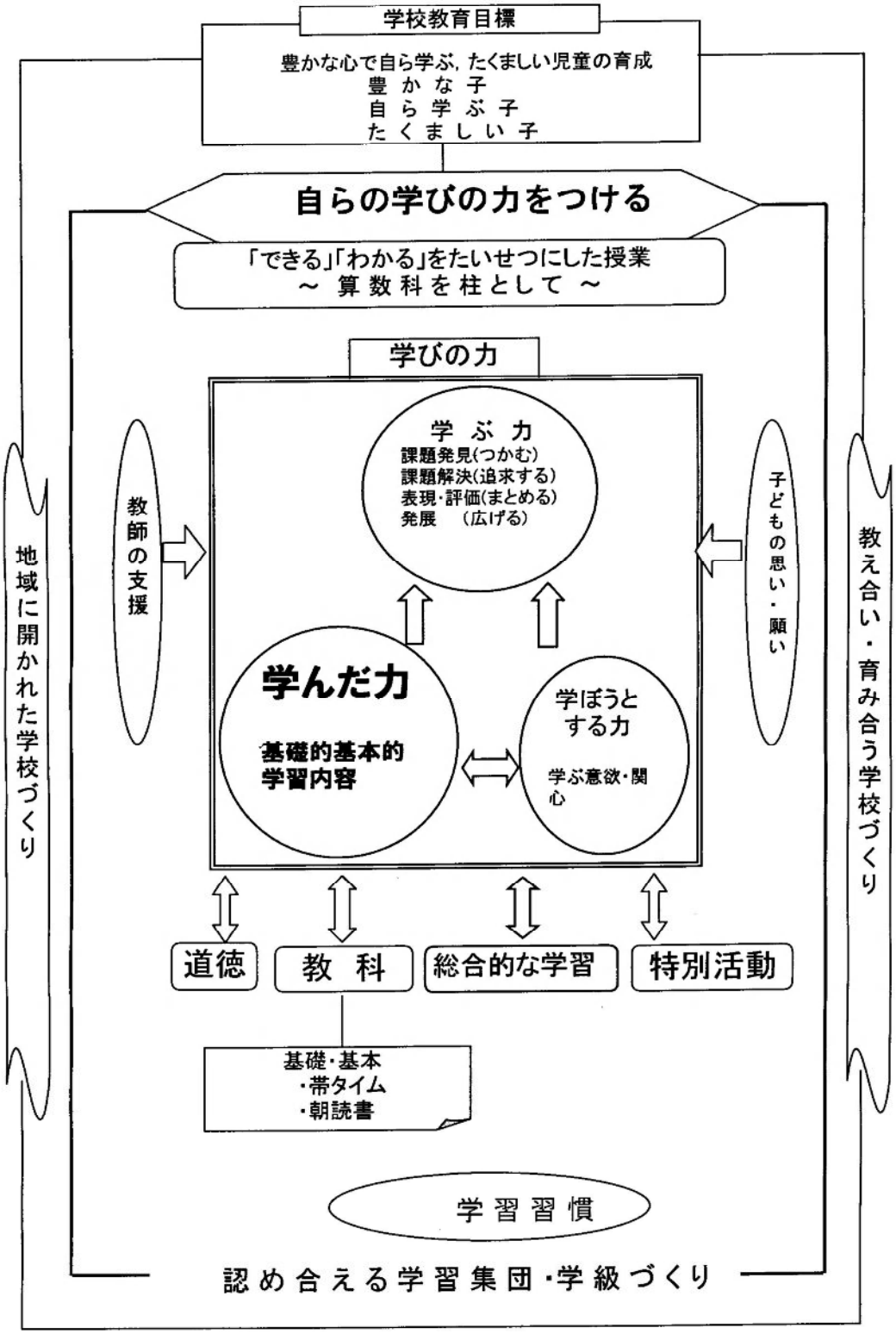
一人で考え，みんなで交流，自他を認め合うしっとりとした学級作り

③言語能力を高める

読書，話し方スキル，音読，書く（ノート指導）

④学習習慣の継続的な取り組み

⑤子どもに視点をあてた整理会の持ち方

子どもの様子・学びを見る，授業を見合う機会を多くとる

校内研究の構造図　　2005. 4